

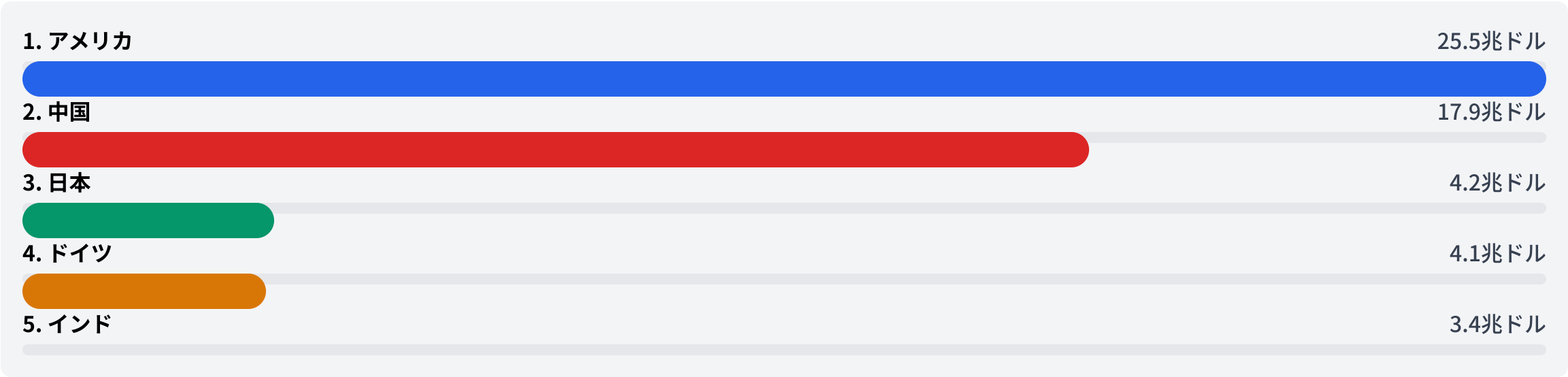
# 世界経済パワーバランス 2024

## GDP トップ5国と予算配分分析

経済力と財政戦略からみる世界のパワーバランス

# 2024年 世界のGDPランキングトップ5

経済力の集中と各国の特徴



アメリカ

- 世界最大の資本市場
- 多様な産業基盤
- イノベーション主導型経済
- サービス業中心（GDP 80%）

中国

- 世界最大の人口（14億人超）
- 製造業大国
- 輸出主導型経済
- インフラ投資に注力

日本

- 高齢化社会
- 高品質製造業
- 個人消費中心の内需
- 技術・自動車産業が強み

ドイツ

- EU最大の経済国
- 高度な製造業
- 輸出志向型経済
- 自動車・化学産業が強み

インド

- 世界最大の人口（14.3億人）
- サービス業中心（GDP 60%）
- IT・デジタル分野に強み
- 急速な経済成長

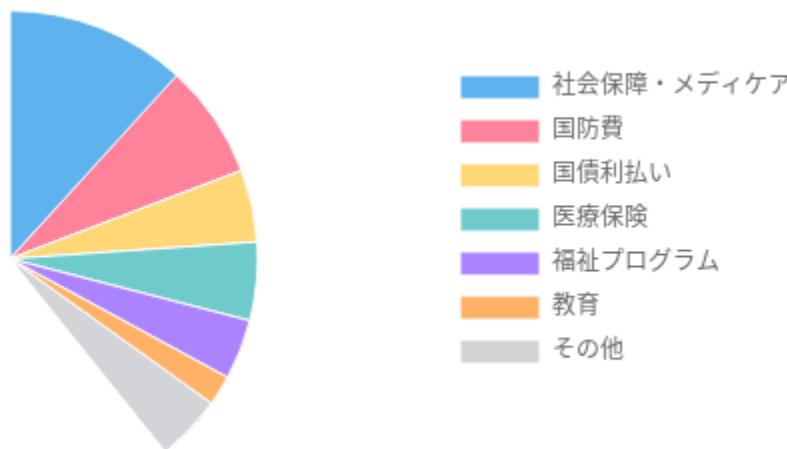
**経済パワーの集中**

上位2か国（米中）のGDPは全世界GDPの約40%を占め、経済力の集中が顕著。他のトップ5国（日本、ドイツ、インド）を合わせると世界GDPの約60%に達する。新興国（特にインド）の台頭が今後のパワーバランスに影響を与える可能性がある。

# アメリカの国家予算配分

世界最大経済大国の財政優先事項分析

アメリカの国家予算配分 (2024年度)



総予算規模

6.3兆ドル

対GDP比: 25%

財政赤字

1.9兆ドル

対GDP比: 7.5%

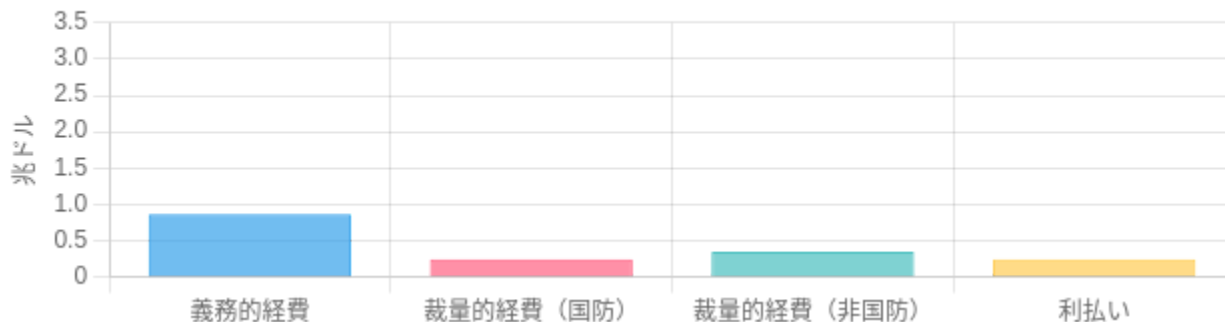
## 予算配分の特徴

- ✓ **社会保障関連が最大:** メディケア・メディケイド・社会保障で予算の約半分以上を占め、高齢化社会への対応が最優先
- ✓ **国防費は世界最大規模:** 世界の軍事支出の約40%を占め、9,000億ドル（約140兆円）を配分
- ✓ **債務利払いの増加:** 金利上昇と累積債務により政府債務の利払い費が急増、柔軟な財政運営を制限
- ✓ **裁量的経費の圧迫:** 義務的経費や利払いの増加により、教育・インフラなどへの裁量的支出の余地が減少

## トレンド分析

2024年度の予算では国防費・社会保障費の増加が顕著。義務的経費が拡大する一方、インフラ投資などのプロジェクトファイナンスは減速。今後も医療関連費用の継続的増加がアメリカの財政課題となる見通し。

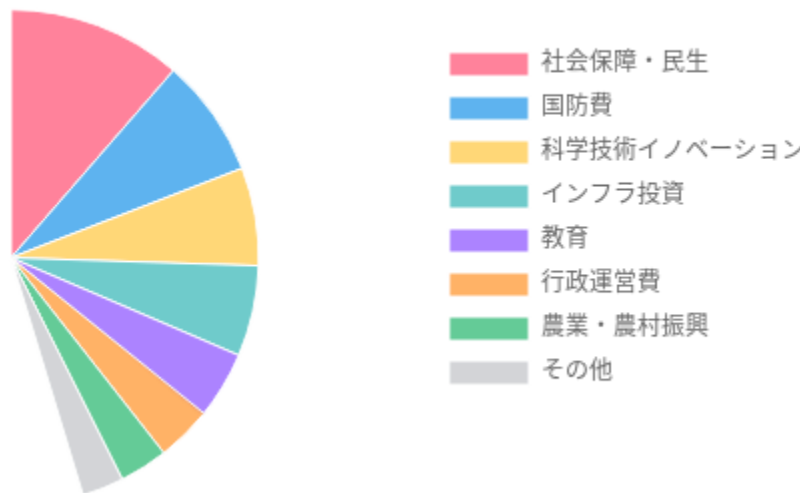
予算カテゴリー別支出 (2024年度)



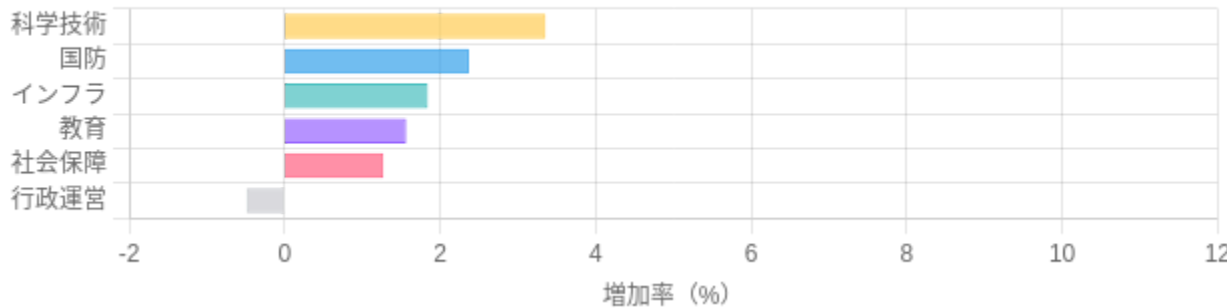
# 中国の国家予算配分

第二の経済大国の財政戦略と重点分野

中国の国家予算配分（2024年度）



主要分野の予算増加率（2024年度）



総予算規模

**29.7兆円**

約61兆円（対GDP比: 17%）

財政赤字率

**4.0%**

前年比 +1.0%

## 予算配分の特徴

- 成長重視型財政: 経済成長目標「5%前後」の達成に向け、積極的な財政政策を展開。内需拡大と高品質な発展に注力
- 国防費の拡大: 2025年度は前年比7.2%増の1.67兆円（約36.5兆円）を計上。軍事近代化を継続的に推進
- 科学技術投資: 科学技術イノベーションへの投資を拡大し、「自立自強」を目指す。半導体・AIなど戦略分野に重点配分
- 地方財政への支援: 中央から地方への移転支出は10兆円超。地方政府の債務リスク管理と経済活性化を両立

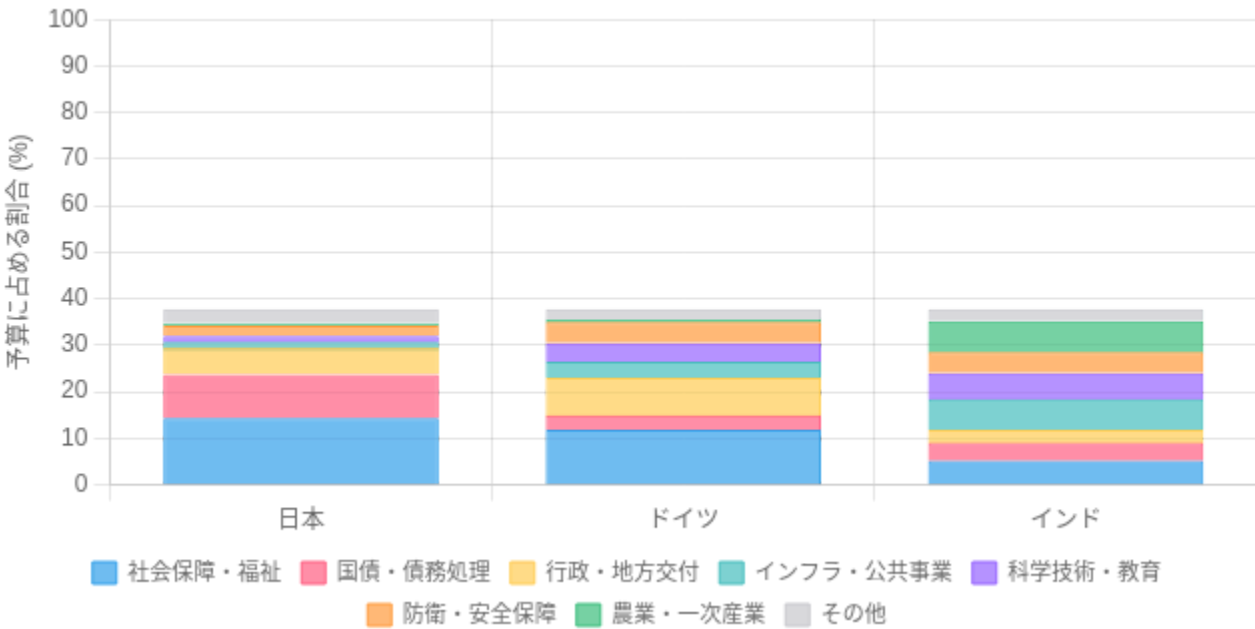
## リスク要因

不動産市場の低迷と地方政府の「土地財政」依存からの脱却が課題。また、人口動態の変化による社会保障費増加と労働力不足の二重圧力に直面。米中対立下での戦略的投資と財政健全化のバランスが試される。

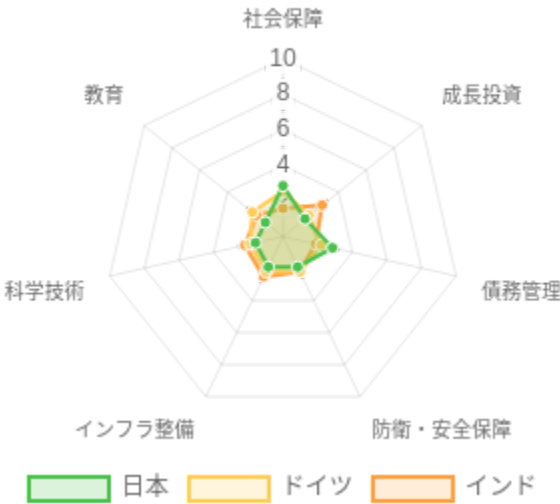
# 日本・ドイツ・インドの予算配分比較

世界3位・4位・5位経済大国の財政戦略

主要支出分野の予算配分比較 (2024年度, %)



予算配分の優先度比較



## 日本

2024年度予算

112.6兆円

GDP比約21%

社会保障	36%
国債費	24%
地方交付税交付金	15%

## ドイツ

2024年度予算

477億ユーロ

GDP比約12%

社会保障	30%
行政サービス	22%
経済・財政	14%

## インド

2025年度予算

50.65兆ルピー

GDP比約17%

農業・農村振興	18%
インフラ投資	17%
科学技術・製造業	15%

## 予算配分の特徴と傾向分析

### 日本の特徴

- 社会保障費が最大の支出項目であり、高齢化社会への対応が鮮明
- 国債費の負担が大きく、財政の硬直化が進行

### ドイツの特徴

- 社会福祉支出が高い一方、「債務ブレーキ」により財政規律を維持
- 近年は国防費を増強、ウクライナ危機以降の安全保障重視姿勢

### インドの特徴

- 成長志向型の予算配分、製造業・輸出競争力強化に重点
- 所得税減税による内需喚起と中間層支援を並行推進

# 結論：予算配分から見る国家戦略と優先課題

世界のGDPトップ5国における財政戦略分析

## 主要国の予算配分の特徴と傾向

### アメリカ: 社会保障と国防のバランス

社会保障・医療費が拡大する一方で、世界最大の国防予算を維持。米国の覇権維持とともに、ベビーブーマー世代の高齢化に伴う社会保障費増大という二重の財政課題に直面している。

### 中国: 戦略的産業育成と安全保障

科学技術イノベーションと国防費への重点投資が特徴的。経済成長モデルの転換期にある中、「自立自強」を目指す半導体等の戦略産業への財政支援が顕著に増加している。

### 日本: 社会保障と債務管理の両立

予算の約60%が社会保障費と国債費で占められ、財政の硬直化が進行。少子高齢化による構造的な課題に直面しつつ、財政健全化と成長投資のバランスに苦慮している。

### ドイツ: 規律ある社会福祉と防衛強化

「債務ブレーキ」による財政規律を維持しながら社会福祉を充実。近年はウクライナ危機を受け、国防費を大幅に増額し、EUの安全保障における役割を強化している。

### インド: 高成長への積極投資戦略

農業・零細企業支援と製造業強化の両輪で成長を目指す。先進国入りに向け、投資と輸出を重視した「成長重視型」予算を組み、中間層の消費拡大を促進するための所得税減税も実施している。台頭する世界第5位の経済大国として、持続的な成長を実現できるかが注目される。

## 予算配分の共通点と相違点

- ✓ **高齢化社会への対応:** 先進国（米・日・独）では社会保障費が拡大し、財政を圧迫。新興国では相対的に若い人口構成を活かした成長投資が可能
- ✓ **安全保障費の増加傾向:** 地政学的緊張の高まりを背景に、全ての国で防衛関連予算が増加。特に米国と中国は相互牽制の構図が鮮明
- ✓ **財政健全化と成長戦略の両立:** 先進国が財政規律と社会保障のバランスに苦慮する一方、中国・インドは積極的な成長投資を優先

## 今後の見通しと課題

- ↗ 各国とも財政の質的改善が課題。単なる支出拡大ではなく、長期的成長と財政持続性を両立する戦略的予算配分が求められる
- ↗ 先進国の社会保障費増加と債務負担増大が経済成長の足かせとなる一方、インドなど新興国は「人口ボーナス」を活かした高成長の可能性
- ↗ 米中の経済・技術覇権競争を反映した予算配分が継続。両国の競争的投資が特に半導体・AIなどの先端技術分野で加速する見込み

「国家予算の配分は単なる数字ではなく、各国の価値観と未来への投資戦略を反映している。2024年の予算分析からは、社会保障と経済成長のバランス、安全保障の重視、そして技術革新への投資が各国共通の優先課題となっていることが明らかである。」